本校の「学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日(火)に全国の小中学校で実施され、本校でも153名の3年生が参加しました。調査内容は、大きく①教科に関する問題(国語・数学)と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、各教科ともA:主として「知識」に関する問題と、B:主として「活用」に関する問題で構成されています。

この調査は、本校の生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導などに役立てることを目的としています。本校では、文部科学省から送られてきた調査結果をもとに分析を行いました。このたび分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

~ 各教科の概要 ~



1 本校の現状 (全国との比較)

A:主として「知識」に関する問題

- ・全体的には全国の平均正答率をやや上回っている。
- ・無解答率は、全設問で全国との明らかな差異は見られないが、「一文を書き加える際に参考にした助言として適切なものを選択する」「見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する」が高い数値を示した。

B:主として「活用」に関する問題

- ・全体的には全国の平均正答率をやや上回っている。
- ・無解答率は、全設問で全国平均を下回っている。

2 本校の分析結果

A:主として「知識」に関する問題

- ○語句や漢字についての理解や使用が定着している。
- ○古文の内容を理解するなど、古典についての学習事項の定着が見られる。
- ○文章の構成を工夫して書くなど「書くこと」の力は身についている。
- △書写で学習したことの知識が定着していない。
- △相手にわかりやすい語句の選択など、相手意識をもって適切な語句を用いることはまだ十分ではない。
- △漢字はある程度定着しているが、小学校学習漢字の中にも読めない漢字がある生徒が見られる。

B:主として「活用」に関する問題

- ○目的に応じて資料を効果的に活用して話す力は定着している。
- ○登場人物の心情をとらえたり、文章の内容を理解したりする力は身についている。
- △国語科で学習した事項を複合的に活用することを苦手とする生徒が多い。

3 教科における今後の主な改善点

- *漢字学習については引き続き授業の中で帯学習の時間を確保し、一層の定着を図る。
- *「書くこと」や「話すこと」の学習では"相手意識"をもちながら語句の選択をするよう、これまで以上に 丁寧に指導する。
- *書写で学習したことを生かして文字を書く機会を授業の中に設定し、普段のノートや提出物の文字も書写で 学習したことを意識させていく。



*1年生の時から続けているNIEの取り組みをこれからも継続させ、文章以外の様々なテキストから読み取ったことについて自分の考えを書かせる学習を継続していく。



1 本校の状況(全国との比較)

A:主として「知識」に関する問題

- ・全体的には全国の平均正答率とほぼ同じであるが、領域別では、「関数」や「図形」(扇形や円錐)の設 問に正答率が低い傾向が見られた。
- ・基本的な文字式の計算での正答率はやや低かったが、作業を伴うものについてはとても高い正答率であった。

B:主として「活用」に関する問題

- ・全体的には全国の平均正答率とほぼ同じである。
- 「説明する」など考え方を示すような問題で正答率が低かった。



A:主として「知識」に関わる問題

- ○分数のかけ算や負の数の表記など基本的な知識・技能は、全国平均を上回っている。
- ○数量の関係を1次方程式で表す問題は、全国平均を大きく上回っている。
- ○三角形の平行移動はほぼ全員に近い生徒が正答し、全国平均を上回っている。
- △文字式の計算は正確さを欠き、全国および山梨県と比較して正答率が低かった。
- △おうぎ形に関する問題は正答率が低かった。
- △三角形の合同条件を正しく記憶するという点において、不十分であると考えられる。
- △関数・グラフに関して理解不足及び正確な記憶の不足が見られる。

B:主として「活用」に関する問題

○与えられた条件を具体的な数字で考えることは正答率が高く,問題理解ができていることを示している。

○図形の移動に伴う予想を問われる問題で全国・山梨県の平均を大きく上回っている。

△与えられた条件を具体例から一般的なηとして考える時に正答率が落ちている。

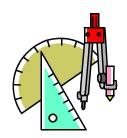
3 数学における今後の主な改善点

- *基礎の確認と復習を繰り返し学習することで、基本的な学力の定着を図る。
- *合同条件の理解習得など、問題解決の手段となる基本的な事柄を確実に習得させる。
- *おうぎ形や関数など、苦手とする事柄が明らかなものについて、関連する学習内容の学習時などに復習場面 を設定し、指導を行う。

~ 質問紙調査の概要 ~

学校生活について

- ○「学校に行くのは楽しいと思うか」に対して肯定的な回答をしている生徒の割合は,全国平均をやや上回っているが,県平均と比べるとやや下回っている。
- ○「学校で、友達に会うのは楽しい」と思っている生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と回答している生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。また、「学級会などの話し合い活動で、自分と異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけて話し合い、意見をまとめているか」に対しても肯定的な回答が全国平均を上回っており、仲間と協調したり協力しながら物事を進めようとしていることがうかがえる。



○「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思うか」に対し、「当てはまる」と回答している生徒 の割合は全国平均を大きく上回っている。

授業について

- ○「学校で、好きな授業があるか」に対して肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ○「総合的な学習の時間に、自分で課題を立て情報を収集・整理して発表するなどの学習活動に積極的に取り 組んでいる」生徒の割合が高く、全国平均を大きく上回っている。
- ○「国語の勉強が好きであり、大切だと思っている」生徒の割合が高く、全国平均を上回っている。
- ○「国語の授業内容がよく分かる」と肯定的な回答をした生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ○「数学ができるようになりたい」と思う気持ちを強く持っている生徒が多く, その割合は全国平均を上回っている。
- ○△「数学の勉強が好きであるか」に対して肯定的な回答をした生徒の割合と否定的な回答をした生徒の割合がほぼ同数で、全国平均と比較すると肯定的な回答は本校の方が下回っている。一方、「数学の勉強を大切だと思う」生徒の割合は全国平均と同程度で、特に「当てはまる」と回答した生徒の割合は全国平均、県平均ともに上回っている。
- △「数学の授業内容がよく分かるか」に対し「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国平均を下回る。「どちらかといえば当てはまる」まで含めると全国 平均と同程度となるが、「どちらかといえば当てはまらない」の割合は、全国 平均よりも上回っている。

規範意識について

- ○「学校の決まりを守っているか」「友達との約束を守っているか」に対し肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ○「いじめは, どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している生徒の割合は, 全国平均を大き く上回っている。
- △「人が困っているときは、進んで助けているか」に「当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国平均 を上回ってはいるものの、その値をもう少し高めていきたい。

生活習慣について

- ○「起床時刻,就寝時刻ともに毎日,同じくらいである」と回答した生徒の割合は,全国平均を上回っている。
- ○「平日の読書時間」について、「全くしない」生徒の割合は全国平均を下回っている。「2時間以上」する 者もいれば「1時間に満たない」者もいて読書時間には幅があるものの、総じて全国平均を上回っており読 書好きの生徒が多いと言える。
- △「朝食を毎日食べているか」に対して「している」と回答した割合は全国平均より低く、「どちらかといえばしている」まで含めても、全国平均とほぼ同じである。
- $\triangle 1$ 日あたりのテレビやビデオ・DVDを見る時間は「1時間以上2時間より少ない」と回答した生徒の割合が最も多く、次いで「2時間以上3時間より少ない」、「3時間以上4時間より少ない」と続く。全国平均と比べると、テレビ等の視聴時間は長い傾向にある。
- △普段,1日あたりに携帯電話やスマートフォンで通話やメール,インターネットをする時間は「2時間以上3時間より少ない」が最も多く,「1時間以上2時間より少ない」,「30分以上1時間より少ない」と続きいずれも全国平均を上回る。一方,「携帯電話やスマートフォンを持っていない」生徒の割合は全国平均より低い。本校では、携帯電話やスマートフォンを所有する生徒の割合が85%を超え、これは全国平均をやや上回る状況にあり、使用時間を含めてその使い方に課題が残る。

家庭学習について

- ○「学校の授業時間以外に,普段(月~金曜日),1日あたりどれくらいの時間勉強するか」に対しては「1時間以上,2時間より少ない」が最も多く,次いで「2時間以上,3時間より少ない」,「3時間以上」と続く。また,「全くしない」生徒の割合は全国平均を大きく下回っている。
- ○「土曜日や日曜日など休みの日に、1日あたりどれくらいの時間勉強するか」では、「2時間以上、3時間

より少ない」が最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」、「1時間より少ない」、「3時間以上」「4時間以上」と続いている。平日の家庭学習の様子と似たような傾向である。

- ○「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」に対して「している」、「どちらかといえばしている」を合わせた値は、全国平均を上回っているものの、県平均はやや下回っている。
- ○「家で、学校の宿題をしている」生徒の割合は、県平均、全国平均ともに大きく上回っている。
- ○「家での、授業の予習・復習」に関しては、予習よりも復習に時間をかけている生徒の割合が多い。予習を「している」は全国平均を上回り、「どちらかといえばしている」は全国とほぼ同等である一方、「あまりしていない」も全国平均を上回っている。復習に関しても、全く同様の結果である。

地域や社会との関わりについて

- △「今住んでいる地域の行事に参加しているか」に対して肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国平均とは同程度であるが、県平均との比較では大きく下回っている。反対に、「当てはまらない」の本校の割合は、全国、県ともに平均を上回っている。
- ○「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と回答した生徒は約50%で、全国平均とは同程度であるが、県平均よりは下回っている。



○△「地域や社会で起こっていることへの関心」は高く、全国平均、県平均ともに 上回っている。一方で、「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」こ とに対してはやや消極的である。

△○「新聞をほとんど、または全く読まない」生徒は約半数を占めているが、それでも全国平均は下回っている。一方、「テレビのニュース番組や、携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットニュースを見る」生徒の割合は全国平均を上回っている。

質問紙調査からの今後の主な改善

- *学校に行くのが楽しいと感じ、学校での様子を家の人に伝えている生徒が多い。その気持ちや姿勢を大切に し、生徒一人ひとりが生き生きと授業や諸活動に臨み、達成感や成就感を持てるような教育活動の推進に今 後も努力していく。
- *「早寝・早起き・朝ご飯」を中心とした基本的な生活習慣の確立を図るとともに、家庭生活におけるルールづくりとそれを守り、守らせる親子関係を構築することへの働きかけや支援を積極的に行う。特に携帯電話やスマートフォンの所有率が高い本校の現状を踏まえ、便利なツールの背後に潜む危険性について子供と一緒に学ぶ姿勢を大人も持ち、使用時間の管理や適切な使い方等を子供たちにしっかり指導していくことを目指す。
- *授業の導入で生徒に学習の見通しを持たせ、まとめで振り返りをさせる主体的な学びを確立するために、『甲府スタイル』の授業づくりの視点に基づく授業改善をさらに進める。加えて、校内研究で取り組んでいる「学び合い」を授業過程に効果的に取り入れ、考える力や発信する力、根拠に基づいて説明する力などを育むことにも、職員で協働して積極的に取り組む。
- *授業と授業をつなぐ宿題や課題が、基礎・基本の定着とより深い理解につながるものとなるような提示の仕方、活用の仕方をさらに工夫・研究していく。
- *家庭学習の時間確保と時間伸長を目指し、学活等を活用して家庭学習の方法や内容について具体的な指導を 行う。また、個別には二者懇談・三者懇談でそれぞれの課題に見合った家庭学習のあり方を指導し、継続的 に支援していく。
- *気になるニュースについて自分の考えや意見を交えて書いたり、それを読みあったり発表しあったりする取り組みを今後も継続し、新聞に目を通し、社会の出来事に関心が持てるように仕向ける。
- *地域の問題や出来事に関心はあるものの、それらに具体的にどう関わったらよいかを考えたり行動に移したりすることができていない現状がある。JRC委員会活動とタイアップを図り、地域の福祉施設慰問や環境整備活動等に積極的に参加させることを通して、地域との関わりやつながりを生徒自身が実感できるよう働きかけていく。